

# 前回の課題で作成した環境の確認





#### 1. 作業フォルダへの移動(Windows)

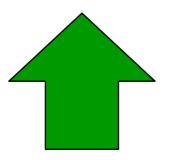
- Windows Power Shellを起動し「ドキュメント」フォルダの下の 「cs\_exercise」フォルダに移動します
- その中にある「django1」フォルダに移動します

```
PS C:\Users\iniad> cd Documents\cs exercise
PS C:\Users\iniad\Documents\cs_exercise> mkdir django1
    ディレクトリ: C:\Users\iniad\Documents\cs_exercise
Mode
                     LastWriteTime
                                          Length Name
             2021/09/10 11:57
                                                 django1
PS C:\Users\iniad\Documents\cs_exercise> cd django1
PS C:\Users\iniad\Documents\cs_exercise\django1>
```



### 2. 仮想環境の有効化(Windows)

- 「django1」フォルダの中に前回作成した「venv」という名前の仮想環境を有効化します
  - 仮想環境は前回作成済みのため、新たに作成する必要はありません
    - \*バックスラッシュと円マークは同じ。どちらの表示でもOK



先頭が(venv)に変われば、仮想環境が正常に有効化されている



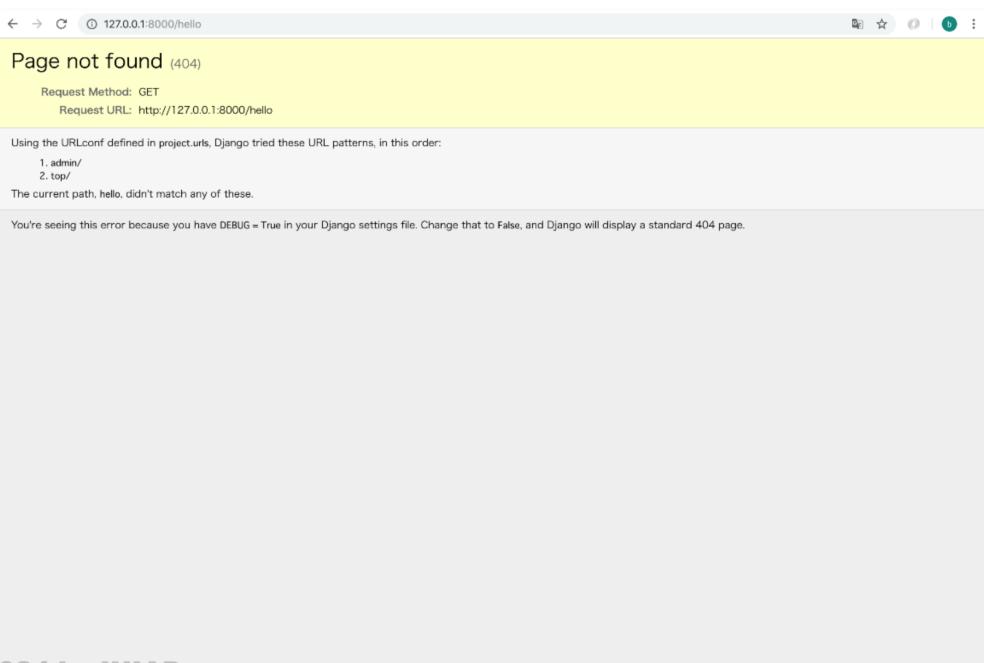
#### 3. Djangoサーバーの起動確認

1. manage.pyがあるディレクトリでdjangoを起動します

```
python manage.py runserver (mac/t python3 manage.py runserver)
```

- 2. ブラウザで「<a href="http://127.0.0.1:8000/top">http://127.0.0.1:8000/top</a>」にアクセスし表示を確認します
  - ※ <a href="http://127.0.0.1:8000/">http://127.0.0.1:8000/</a> はURLの設定がなくなるため、右側のエラー画面が表示されます

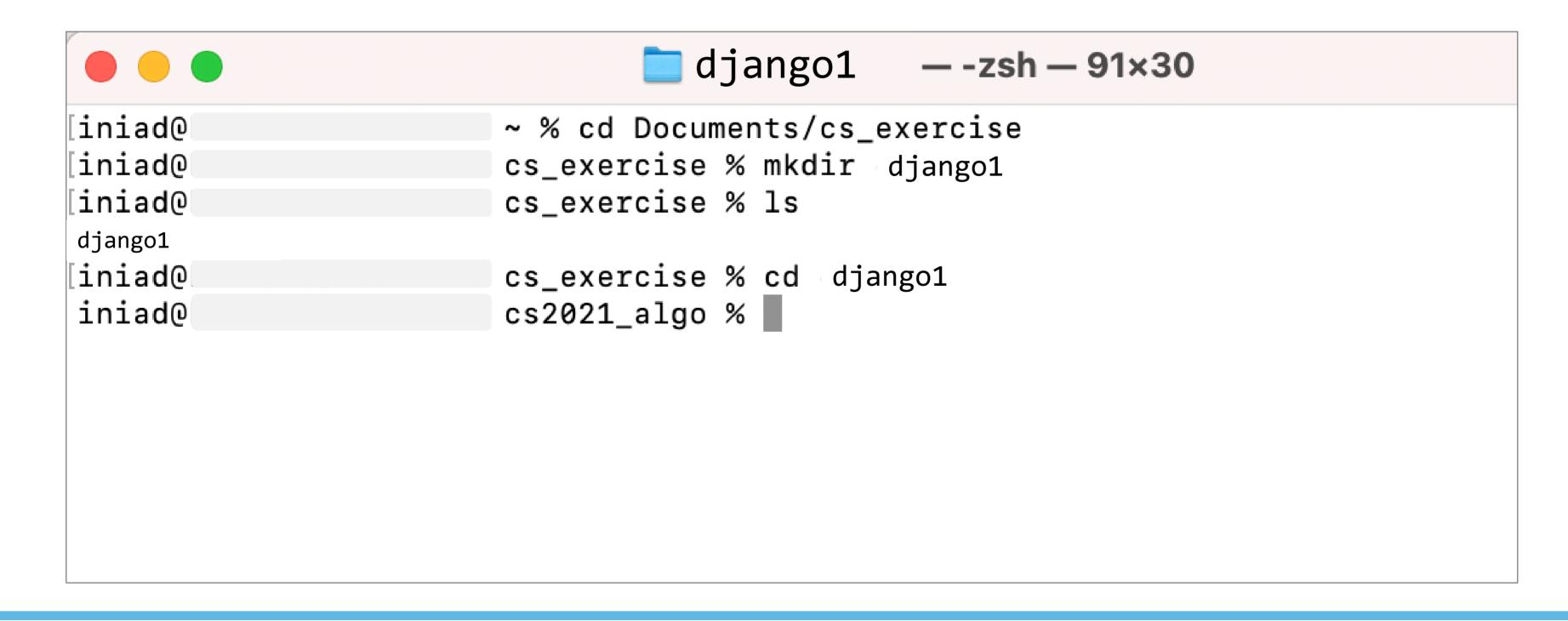
urls.pyで定義されていないURLへのアクセス





## T. 作業フォルダへの移動(macOS)

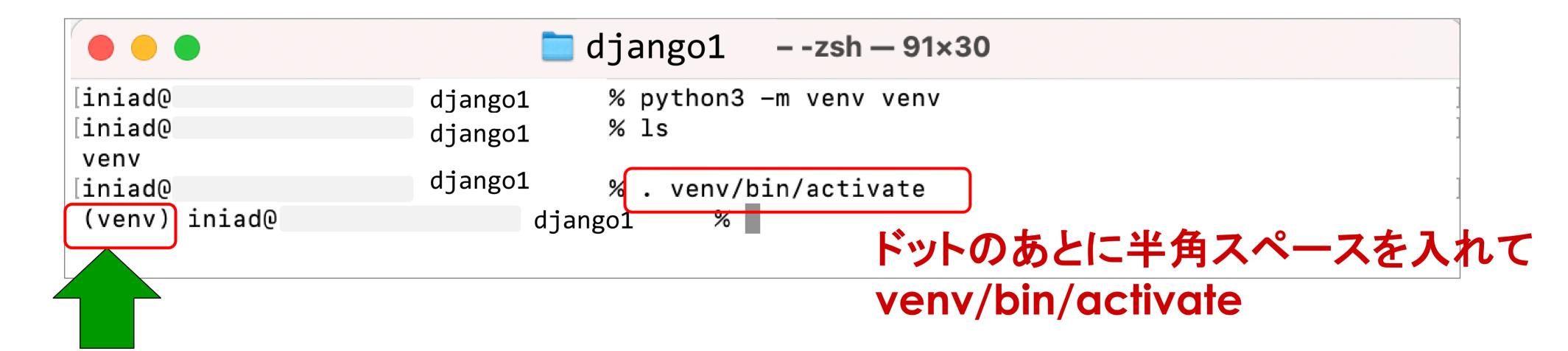
- Terminalアプリを起動し「ドキュメント」フォルダの下の「cs\_exercise」フォルダに移動します
- その中に「django1」フォルダに移動します





## 2. 仮想環境の有効化(macOS)

- ●「djangol」フォルダの中に前回作成した「venv」という名前の仮想 環境を有効化します
  - 仮想環境は前回作成済みのため、新たに作成する必要はありません



先頭が(venv)に変われば、仮想環境が正常に有効化されている

または、source venv/bin/activateでもよい



#### 3. Djangoサーバーの起動確認

1. manage.pyがあるディレクトリでdjangoを起動します

```
python3 manage.py runserver (Windows は python manage.py runserver )
```

- 2. ブラウザで「<a href="http://127.0.0.1:8000/top">http://127.0.0.1:8000/top</a>」にアクセスし表示を確認します
  - ※ <a href="http://127.0.0.1:8000/">http://127.0.0.1:8000/</a> はURLの設定がなくなるため、右側のエラー画面が表示されます

http://127.0.0.1:8000/top

← → ₾ ① 127.0.0.1:8000/top/

Hello Django

urls.pyで定義されていないURLへのアクセス

